

診療内容

泌尿器科疾患全般を取り扱っております。尿路性器悪性腫瘍（腎がん・腎盂がん・尿管がん・膀胱がん・前立腺がん・尿道がん・精巣がん）、副腎腫瘍、尿路結石症、尿路性器感染症、排尿・蓄尿機能障害、腎機能障害、シャントトラブル、男性機能障害など幅広い領域の診療を行っています。最近では治療による痛みや苦痛ができるだけ少なく、手術の傷が小さくて済むように、QOLを重視した低侵襲治療を積極的に採用しています。具体的には、腎癌、腎盂癌、尿管癌、副腎腫瘍に対する腹腔鏡手術やHoLEP（経尿道的前立腺レーザー核出術）、軟性尿管鏡を用いたレーザー碎石術（fTUL）や細径腎盂鏡を用いた経皮的腎結石碎石術（miniPNL）などが施行可能です。透析施設の患者さんのシャントトラブルでお困りの場合も、即日対応できる体制を整えています。さらに4月からは、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入しますので、今後は前立腺癌、腎癌、膀胱癌などに対しまして、より安全・低侵襲で質の高い手術療法が可能となります。

排尿障害でお困りの患者さん、尿潜血陽性または肉眼的血尿を認める患者さん、尿路結石による痛みが疑われる患者さん、PSA高値の患者さんなどいらっしゃいましたら、お気軽に当科に相談いただけますと幸いです。

（文責 森 英恭）

手術支援ロボット「ダヴィンチXi」 2021年4月導入



ダヴィンチは、アメリカで開発された内視鏡手術を支援するロボットです。ダヴィンチによる手術では、内視鏡とアームを手術創に挿入し、医師がロボットを遠隔操作して手術を行います。これにより、拡大視野でより精度の高い手術が可能となりました。

ロボット支援手術のメリット

1. 体への負担が少ない
2. より精度の高い手術
3. 鮮明な3D画像

対象疾患

前立腺がん
腎がん



前立腺がんの罹患率は年々増加傾向で、生涯で罹患する確率は10.8%（約9人に1人）とされています。当院では、前立腺がんのみならず、泌尿器がんの早期発見・早期治療に注力し、さらに患者さんのQOLに配慮した体に優しい手術を心がけています。